

# 重 要 記 録

## 1 新型コロナウイルス感染症対策事業の実施（通年）

新型コロナウイルス感染症対策として、「感染拡大の防止」と「社会経済活動の維持」の両立を図るため米子市感染症総合対策会議を設置し、米子市新型コロナウイルス感染症対策本部と連携して全庁を挙げて取り組んだ。

感染拡大の防止として、学校や医療機関への備蓄マスクの提供や市民への情報提供を行うとともに保健師の派遣など保健所との連携を図った。

社会経済活動の維持として、市民向けには様々な相談に対する窓口の設置や特別定額給付金をはじめとする各種給付金の支給などの生活支援の取組を行い、事業者向けには資金繰りの支援や事業継続応援給付金等の給付、プレミアム付き商品券の発行など消費喚起策の実施、宿泊業緊急支援事業をはじめとする各業種への支援を実施した。

また、「新型コロナウイルスに関する人権侵害を防ぐ、3つの宣言」を発出し、感染症に関する差別や非難、風評被害などに立ち向かう決意を表明した。

## 2 フレイル対策事業の全市展開と全中学校区に地区担当保健師配置（通年）

健康寿命の延伸を図るため、全市的にフレイル度チェック、健康教室・健康体操の実施、重症化の恐れのある対象者へ個別フォローを行う等、フレイル予防や啓発活動に取り組んだ。また、各中学校区の地区担当保健師が健康相談を行うなど、赤ちゃんからお年寄りまで地区の健康づくりを支援した。

## 3 全国広報コンクール広報企画部門入選「しろやま天空カフェ」（4月）

地方自治体等の優れた広報活動を表彰する全国広報コンクール(日本広報協会主催)で、米子市が初入選した。入選した「しろやま天空カフェ」は、しろやま(米子城跡)山頂でオリジナルコーヒーマウンテンを飲んでいただく企画であり、地域におけるしろやまの価値再発見や同コーヒーマウンテンの商品化などにつながった。

## 4 通称「皆生通り」、「けやき通り」及び「和崎かけはし通り」と命名（5月及び2月）

自分たちが暮らしている街に愛着を持つとともに、わかりやすいまちづくりを推進していくことを目的とし、一般県道皆生西原線(米子市観光センターから国道9号まで)の約2.6キロメートルを「皆生通り」、国道431号の一部区間(皆生大橋から一般県道両三柳西福原線合流地点まで)の約5.6キロメートルを「けやき通り」、一般県道米子環状線の一部区間(国道431号から主要地方道米子境港線までの都市計画道路葭津和田町線)の約2.3キロメートルを「和崎かけはし通り」と命名した。

## 5 児童文化センタープラネタリウムリニューアルオープン（6月）

米子市児童文化センターの開館以来37年ぶりにプラネタリウムがリニューアルオープンした。より本物に近い星空を美しく表現できる最新の光学式プラネタリウム、迫力ある映像を投影する全天周デジタル投影システム及びバリアフリー設備を導入するとともに、子どもから大人まで楽しめるよう、上映するプログラムを充実するなど、これまで以上に工夫をこらした運営を行っている。

## 6 新加茂公民館供用開始（6月）

県道東福原樋口線の敷設に伴い新築移転した加茂公民館を6月1日に供用開始した。新しい加茂公民館は、鉄筋コンクリート造平屋建で、鳥取県福祉のまちづくり条例に基づき、車いす利用者駐車場、多目的トイレ、授乳室を備えたバリアフリー構造とし、事務室には車いす対応の窓口を整備した。

## 7 「旧加茂川 名称変更」（8月～11月）

古くから地域に「加茂川」の名称で親しまれている「旧加茂川」の名称を、「加茂川」に戻したい地域住民の要望を受け、令和2年8月、「旧加茂川」は「加茂川」に、「加茂川」は「新加茂川」に、「旧加茂川放水路」は「加茂川放水路」に変更された。

この名称変更を契機に、市役所の若手職員を中心とした「加茂川名称変更記念プロジェクトチーム」が発足され、記念イベント等に参加協力した。

## 8 米子駅 仮駅舎に移転～南北自由通路整備本格化～（9月）

令和5年春の供用開始に向けて整備を進めている、米子駅南北自由通路等整備事業の進捗に伴い、鉄道のまち米子のランドマークとして、半世紀以上にわたり市民の皆さんに親しまれた本市の玄関口である米子駅舎が、新たな駅舎と自由通路へ生まれ変わるため、仮駅舎へと移転した。

## 9 伯耆古代の丘公園に芝生広場整備（10月）

令和元年度に整備した芝生広場に遊具を設置し、子どもたちがより快適に楽しめるような広場を造った。また、公園内トイレを洋式化に整備して利用者の利便性の向上を図った。

## 10 米子市役所いつでもアンサー（AIチャットボット）運用開始（11月）

市民の方などが、夜間や休日も含めて、いつでもスマホや自宅のパソコンから簡単に問い合わせをすることができる環境を整備するため、AI（人工知能）が問い合わせに対して自動応答するAIチャットボットサービス「米子市役所いつでもアンサー」を、市ホームページ上及び「LINE」の米子市公式アカウント上で開始した。

## 11 米子インター周辺工業用地完売（1月）

米子流通業務団地の南側に位置する米子インター周辺工業用地は、令和2年3月に造成工事が完了し、「製造・加工系の工場」を予約分譲募集対象業種として募集を行い、令和2年4月に1区画を売却した。その後は、新型コロナウイルス感染症の影響により製造業の投資意欲の回復が見通せないことから、令和2年9月に募集対象業種を変更し、改めて公募を行ったところ、残り4区画に応募があり、令和3年1月に売却を完了した。

## 12 防災ラジオ事業開始（1月）

市の防災行政無線放送の設備と、株式会社DARAZコミュニティ放送が運営するコミュニティFMを連携させる整備を行い、1月12日から防災ラジオ事業の運用を開始した。これにより、市販のラジオで防災行政無線放送を受信できるようになった。

また、市の防災行政無線放送が流れる際に自動的に電源が入る「自動起動機能付きラジオ放送受信機」を4,000台購入し、地域防災関係者に対して無償貸与を行ったほか、一般向けに有償貸与の募集を開始した。

### 1 3 第4次米子市一般廃棄物処理基本計画の策定（2月）

持続可能な社会実現のため、プラスチックの使用削減や食品ロスの削減が重要な課題となるなか、さらなる4Rの推進や普及啓発・環境教育の推進に取り組むとともに、し尿の適正処理の確保に取り組むなど生活排水対策の推進を図ることを目的として、第4次米子市一般廃棄物処理基本計画を策定した。

### 1 4 第2次米子市環境基本計画策定（2月）

本市の環境の保全と創造に関する目標及び施策の方向性を示すとともに環境施策を総合的かつ計画的に推進する基本的な計画として「第2次米子市環境基本計画」（令和3年度～令和12年度）を策定し、あわせて、長期的な目標として、「2050年までに温室効果ガス実質排出ゼロ」を目指すことを表明した。

### 1 5 市道安倍三柳線（1工区）開通（2月）

平成25年度に事業を再開し進めてきた、市道外浜街道線から県道両三柳西福原線（通称：外浜産業道路）までの延長約0.4kmの区間（1工区）が完成し、2月27日に開通式を行い供用開始した。この開通により、周辺道路の渋滞解消はもとより周辺地域へのアクセス強化が図られ、地域の活性化につながった。

### 1 6 旧湊山球場が史跡米子城跡三の丸として国史跡に追加指定（3月）

国史跡米子城跡三の丸に位置する湊山球場が令和2年9月、67年の歴史に幕を下ろし、令和3年3月に国史跡として追加指定された。これにあわせて同月、「三の丸駐車場」が供用開始となり、記念セレモニーや「三の丸PARK Fes」を開催した。本格的に史跡公園としての整備に着手した。

### 1 7 「新商都米子」のまちづくり2021策定（3月）

米子市まちづくりビジョン（令和2年3月）及び米子市都市計画マスタープラン（令和元年6月）で示した米子市のまちづくりの基本的な方針及び主な取組等のうち、特にまちなかと郊外の一体的な発展に寄与する主要な事業について、2020年時点での実施及び検討状況を取りまとめた。

### 1 8 皆生みらいの灯りコンセプト「海に開く」策定（3月）

皆生温泉の旅館経営者等で作る組織「皆生温泉まちづくり会議」が、温泉情緒ある夜景の実現に向けて、現地確認会、勉強会、講演会、社会実験を通じて、「皆生みらいの灯りコンセプト“海に開く”」を策定した。今後は、このコンセプトをもとに官民連携し、皆生温泉の夜景のリニューアルに向けた取組が始まった。

### 1 9 児童生徒1人1台のタブレット端末を配備（3月）

多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない個別最適学習の実現を目指す「GIGAスクール構想」を加速するため、児童生徒1人1台のタブレット端末配備及び各学校内の通信ネットワーク環境の整備を完了した。